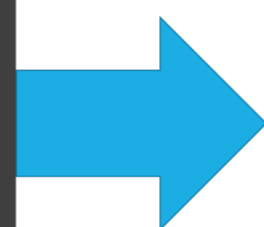


タイトル	アパレル産業は今後どのように変わっていくのか ——環境と情報化社会の視点から——		
所属	南山大学人文学部人類文化学科藤川ゼミ	氏名	山崎章吾

## ①環境意識の高まり

### アパレル業界の取り組み

1. 動物性の素材を使用しない
  2. 再生利用素材の使用
  3. オーガニックコットン\*の使用
  4. フェアトレードの実施 など、、、
- \* 無農薬、化学肥料なしのコットンで、環境と生産者にやさしい



### 例1. パタゴニア



- 100%オーガニックコットンを使用した製品
- 2025年までにすべての製品を再生可能素材、リサイクル素材に
- パッケージも再生可能で容易にリサイクルできるものに
- ブラックフライデーの売り上げ100%を環境保護団体に寄付

→製品中心のマーケティングから共感的なマーケティングに

### 例2. GU



- サステイナブルなデニム作り
- 客が着なくなった商品を預かり、世界に届けたり燃料に
- 「瀬戸内オリーブ基金」で植林活動
- 使い捨てプラスチック削減活動

## 理由&考察

- 国民全体のSDGsへの意識の高まり
  - 環境配慮が企業PRに繋がっている
- メディア露出頻度の増加や評価が上がる
- 持続的に資源の確保ができる
  - 社会貢献によって従業員の意識が高まる

など、ほかにも様々なメリットがあり、この先なくなる需要

今よりもさらに環境に配慮した商品やサービスが提供される？

## ②技術の進歩による影響

- SNS(Instagramやtwitter)やインターネットの発達により、多くの人が服を目にする機会が増えた
- ECサイト(ZOZOタウンやオンラインストア)の台頭、有名人をはじめとするインフルエンサーの出現

メルカリやヤフーオークションなどのフリマアプリや、アパレルのサブスクリプションサービスが生まれる

など、、、



### その影響

- 「着るもの」→「自分を表現するためのもの」
  - デジタル化が進み、ECサイトの売り上げが増加
- 百貨店や店舗は売上が苦しくなって減る？
- コロナウイルスなど不確定要素に対応できる

サービスやエコ意識で二次流通がさらに増える？

### 結果

- これまでは、「店舗に行って服を選んで買う」という当たり前が変わっていく
- サービスやニーズの多様化に簡単に対応できるオンライン販売が主流になって、店舗の規模は縮小していくことが考えられる